

子ども食堂支援

多治見市、バローと連携

フードバンク協定締結へ

多治見市議会の定例会は15日、本会議を再開し、前日に続き一般質問を行った。古庄修一(市井の会)、佐藤信行(リベラルたじみ)、山口真由美(創生の会)、渡辺泰三(アーネストクラブ)、仙石三喜男(リベラルたじみ)、寺島芳枝(公明党)、井上あけみ(市民ネットワーク)の7議員が登壇。古庄議員が子ども食堂支援のための企業との協定について質問。古川雅典市長は「バローホールディングスとフードバンクの協定を今年5月前後に結ぶ。賞味期限が迫った食品を子ども食堂の運営者がもらえるようになる」と答弁した。一般質問はこの日で終わり、22日に議案の採決を行う。

古川市長をなくせる。大きな効は、今年5月ごろにバローホールディングスとフードバンクの協定を結ぶ方針を明島議員が助産師のいるらかにし、「子ども食堂の運営者はバローのいてた。柳生芳各店舗に直接余った食品を取りに行ける。バロー側は食品ロス心と体をケアする事業

(山本貴史)

として、本年度から訪問型の産前産後サポート事業を行っている」と答弁。2019年度からの取り組みとして「通所型の教室を月1回開催し、助産師による母乳相談や産後の体調を整えるためのヨガ、産婦同士の交流などを実施する予定」と述べた。



【子ども食堂支援】

古庄議員が支援の一環として企業との協定に

ついて質問。古川市長は、今年5月ごろにバローホールディングスとフードバンクの協定を結ぶ方針を明島議員が助産師のいるらかにし、「子ども食堂の運営者はバローのいてた。柳生芳各店舗に直接余った食品を取りに行ける。バロー側は食品ロス心と体をケアする事業